

オープンソースの取り組み

CNCJの挑戦:クラウドコンピューティングとオープンソースで拓く日本の未来

NECソリューションイノベータ 武藤 周

自己紹介



武藤 周 (Shu Muto)
NECソリューションイノベータ

- Kubernetes
 - SIG UI Chair
 - Kubernetes Dashboard Maintainer
 - Kubernetes Upstream Training Japan Organizer
- CNCF Ambassador
- **CNCJ Organizer**

@shu-mutou on GitHub

@ShuMuto on X (prev. Twitter)

CNCF Cloud Native Community Japan (CNCJ)

- Cloud Native Computing Foundation (CNCF) の日本コミュニティ
- 2023年11月発足
- CNCFと日本の既存コミュニティ・企業・団体を繋ぎ、日本でのクラウドネイティブとOSS貢献の普及促進を図り、技術革新を推進することを目的としています。



CNCF CNCJ 検索

Organizers



Noriaki Fukuyasu
VP of Japan Operations
The Linux Foundation
→ [View profile](#)



Yuichi Nakamura
Hitachi
Hitachi, Ltd.
→ [View profile](#)



Masaya Aoyama
Organizer
CyberAgent, Inc.
→ [View profile](#)



Kohei Ota
Senior Field Engineer
Apple
→ [View profile](#)



Shu Muto
Organizer
NEC Solution Innovators,
Ltd.
→ [View profile](#)



XIE ZIYI
organizer
NEC Solution Innovators,
Ltd.
→ [View profile](#)



Nao Nishijima
organizer
Hitachi, Ltd.
→ [View profile](#)

2023-12-1 キックオフミーティングの様子

- 基調講演: CNCF CTO Chris Aniszczyk氏
- トーク: 設立メンバーら
 - CNCFのコミュニティの状況
 - OSSプロジェクトの状況
 - コントリビューションの動機づけ
 - 具体的な貢献方法など



コントリビューションの 動機づけ

なぜコントリビューションするのか

オープンソースとライセンス(おさらい)

オープンソースの定義 <https://opensource.org/osd>

- オープンソース・イニシアティブ(OSI)によって定義された用語
- 無償、ソースコード公開、変更可能、要ライセンス、要ライセンス再配布、差別禁止(個人、組織、分野、ソフトウェア、技術)

「ライセンス」一覧 <https://opensource.org/licenses>

- 「オープンソース」の定義を満たすと認定した一覧
- 条件の違い: 無償利用の範囲や方法、再配布の方法、派生物の公開義務など
- 商用利用できるライセンス、それを採用しているOSSの明確化

OSSを使いやすくするための指針となった

- ビジネスで安心してOSSを調達、利用できるようにした
- OSSの普及に大いに貢献した

4つの観点：OSS普及とその影響

あるいは、オープンソースの定義や認定ライセンス一覧が伝えなかった事

モノ：OSSそのもの

- 簡単すぎる調達
- ライセンスの範囲

カネ：コストはかかる

- 導入後にかかるコスト

ヒト：OSS開発者・貢献者の意図

- 業界に対する貢献
- スキルアップ
- 大きな開発者満足度

コト：ソースがオープンである 意味と価値

- 誰でも参加できる開発手法／文化
- 開発者や企業が参加、貢献する目的

モノ:OSSそのもの

簡単すぎる調達

- ダウンロードするだけ
- 無償利用可能(購入手続なし)
- これらの強すぎた価値

ライセンス範囲

- 「条件に従って使っていいよ」という利用許諾
- 利用者が責任を持って使う

カネ:コストはかかる

利用者が責任を持って使うためにかかるコスト

バージョンアップにかかるコスト

- ほとんどのプロジェクトで無視できない量のOSSが利用されている
- 複雑な依存関係

OSSプロジェクトの存続のリスク

- サプライチェーンのサステナビリティ確保

バグや脆弱性が発覚するリスク

- 開発時だけでなく、運用後にもかかるコスト

自分で修正パッチや使い方のTipsなどを抱えるリスク

- バージョンアップなどで使えなくなる、適用し直す必要がある

カネ:コストはかかる

リスク回避の有効な手段 ≡ 根本的な解決策

- 源泉であるOSSコミュニティ(アップストリーム)に貢献(還元)
- 貢献を出発点とすることを「アップストリームファースト」と呼ぶ

割とすぐに評価される価値

- 自発的、迅速、直接的な課題解決が、お客様や市場に評価される

ヒト:OSS開発者・貢献者の意図

業界・社会に対する貢献と大きな開発者満足度

- OSS貢献で得られる**多大で多様な学び**と刺激
 - スキル、カルチャー、リーダーシップ、交流、etc
- オープンで**グローバルな実績**

評価されるまで遠い価値

- **スキルだけでなく、モチベーションやエンゲージメントの向上**
- **人材獲得チャンスと人材流出リスク**
 - この価値を認識し、評価している企業に開発者が流れる傾向
 - 組織として認識する必要性

コト:ソースがオープンである意味と価値

誰もが参加できる開発手法であり文化

- 世界中の開発者とユーザーがコラボレーションする場
- 多様性と包括性を持ったコミュニティ

開発者や企業が参加、貢献する目的

- オープンイノベーションに参加し、実践すること

評価されるまで遠い価値

- 未来の価値

組織や国境を越えて協力して課題を解決し、 発展する方法としての オープンソースの価値を得る！

- OSSそのものだけでなく、コミュニティ(ヒトやコト)の価値を得る！
- 「オープン」かつ大規模な集合知による、「イノベーション」の実践！
- 自らの事業、お客様、業界／社会の「三方良し」で実践しましょう！

コントリビューションの実践方法

バグ報告

- 今すぐできる！
- 貢献の第一歩
- アカウント作成
- バグ報告

ドキュメンテーション

- 実装への追随
- 翻訳

パッチ投稿

- Code!
- Test!

コミュニティ参加

- イベント参加
- ブログ・SNS
- 社内コミュニティ

OSPO設立

- 組織的な活動
- 社内ルール
- 見積(顧客説明と工数確保)方法
- 評価

Kubernetes Upstream Training

Kubernetesコミュニティへのコントリビューションを体験できるトレーニング
オンデマンドで自習も可能です！

🗣️「コミュニティの人々は皆とても親切で、英語が流暢でなくても、遠慮せずになんでも言える」というメッセージを届けたい！

**CNCJとしての
開催を検討中です！**

自習資料(動画とスライド)や
過去開催の様子はコチラ →



THANKS

CREDITS: This presentation template was created by [Slidesgo](#), and includes icons by [Flaticon](#), and infographics & images by [Freepik](#)